

[土壁の発生と変遷]

支配層の建物

庶民の家

	飛鳥時代：592～710	●飛鳥寺金堂（606） ●法隆寺五重塔（607）	①下地 ②下塗り ③中塗り+上塗り ・壁づくりの工程は、現在も同じ
古代	奈良時代：710～794		
	平安時代：794～1185	白土→石灰・貝灰	●壁は簡素（年中行事絵巻）
	鎌倉時代：1185～1333		
中世	室町時代：1336～1573 <small>応仁の乱 (1467～1477)</small>	●和室の原形（同仁齋）	
	安土桃山時代：1573～1603	●塗籠式城郭 / 量的生産力拡大	
近世	江戸時代：1603～1868	(文治政策・経済発展) 城下町の形成 → 町家 →	(都市の防火対策) ●草庵茶室と数寄屋 / 質的意匠 ●土蔵の普及 左官技術の完成
	明治時代：1868～1912	濃尾地震（1891）姉川地震（1909）→耐震化の認識 防火条例→土蔵造り、公共建築に西洋様式、漆喰鍍絵	
近代	大正時代：1912～1926	家屋耐震構造論 / 佐野利器（1915）...耐震補強 / 斜材 石膏プaster輸入 「市街地建築物法」（1919）	
	昭和・戦前 / 戦中：1926～1945		↓ (土壁は非耐力壁)
	昭和・占領期：1945～1952 <small>終戦 (1945)</small>	●住宅不足450万戸	「建築基準法」（1950）
現代	昭和・戦後：1952～1989	●西洋式生活スタイル、住宅は真壁から大壁へ	都市部で土壁減少
	平成：1989～	●兵庫県南部震災（1995）→耐震化・木構造の研究 ●CO2削減 →省エネルギー化 →調湿性評価 ●告示改正 / 2003.土壁構造耐力・2004.土壁防火構造	土壁住宅の激減

(土壁は耐力壁)

新素材としての土壁に期待

